

## 医学部におけるカリキュラムの見直し 教育目的にそってどのような改善を図るのか、 基本的視点と検討の結果の報告

医学部 荒川正昭

医学部では、自己判断能力、独創性を養う教育をめざして、医学領域の基礎的並びに先進的な知識と技術を与える教育とともに、医師としての人格や識見等の涵養を図る教育を併せて行うことを目的としたカリキュラムの見直しを行い、平成5年度入学者から適用し、平成11年3月に新カリキュラムによる卒業生を送ることになっている。まだ一巡していないので全体の見直しまでは行っておらず、現時点での報告になる。

現行のカリキュラムは、具体的には6年一貫教育を行うこととし、その内容は、次のような計画で進められた。

- 1～2年：教養教育に力を注ぎ、科学技術観や隣接諸科学の理解を深める。また、医学への動機付けを指向したプログラムを取り入れる。
- 2～4年：人体の構造、機能、病態、老化、遺伝等についての知識を与え、医学の基礎的な理解を深め、かつ、自主的に各講座の医学研究に参加できるプログラムを導入する。
- 4～6年：臨床医学についての基本的考え方から高度先進的な知識および技術を教えるとともに、予防医学も含めた包括医療及び保健について理解を深め、また、医師としての人格、識見等の涵養を図るために生命倫理等の講義・実習等を具体化する。

専門教育について：現在、新カリキュラムによる学生は5年次であり、専門教育に関する問題点は出尽くしていない。新設した科目の効果は表れはじめてきている。また、科目の学年別比重の度合いが、一部学年で負担が大きかったため、学生からの要望もあり、できる範囲から改正を行ってきた。なお、平成10年度には、新しく臨床教授制度を利用した学外病院での臨床実習がはじまるので、今からその対応について準備している段階である。

教養教育について：前からあった問題ではあるが、2

点について今後も検討を継続していかなければならない。

第1点目は、学生の「生物」の学力不足があげられる。特に、医学部学生に必要な領域の生物学の力が弱く、専門に進んでから再教育の必要がある。

この点の対策としては、教養生物学に対する要望、専門に来てからの再教育、入試で生物の学力を計る方策を探る等の方法等があるが、検討しているところである。

第2点目は、語学、特に英語の学力向上を図りたいということである。医学の分野では、英語が公用語となっており、卒後の研究、研修において十分な英語力をもっていることは必須要件である。

現在も、2年次向けにネイティブスピーカー3人による3クラスの英語を、3年次向けにネイティブスピーカー1人による1クラスの英語を開講している。2年次にはガイダンス必修としているが、規程では必修ではなく選択科目であるため、学生の取り組みがいまひとつである。3年次はともかく、2年次には英語を必修として取得させるべく検討していきたい。

このことは、第2外国語は重要視していないということではなく、第2外国語の有用性・必要性は十分に認識しているものである。